

『主な質疑』

■総務課：一般会計

Q：延びていた公約の町民参加条例は、いつどう取り込むのか。

A：22年度内にある程度の形にして、皆さんと話し合っていきたい。

Q：7,665万円の特別交付税の配分のうち除雪関連経費が20%増えている。特に新潟市、長岡市方面の豪雪により重く配分されたのではないか。

A：特別交付税はがんばる地方応援プロジェクト1,500万円入れて最終的に計9,165万円と多くなっている。県のさじ加減が大きい新潟市の下の方面が豪雪だったということでも国への働き方をしていた。除雪に関して地域活力創造基盤整備事業で雪寒の路線については3分の2補助金を差し引いている。詳細について県に確認したい。

Q：心のふるさと基金445万6千円、昨年度の大口の納税者の方にはどんな対応したのか。

A：300万円の大口の納税者から特に求められなかった。

たので他の方と同様の対応とした。22年度は、ふるさと納税者から広報掲載の有無欄を設け、個人情報に配慮して町民に知らせたい。

Q：清掃の委託料が360万円から150万円と大幅に下がったが、これは仕様内容の変更に基づくものなのか、それとも入札によるものか。

A：庁舎の清掃費は、4,5社から仕様書に基づき、役場や学校関係、保育所、給食センター、公民館の町施設ごとに見積りし決めている。清掃の内容は変わらない。

Q：消防団の部統廃合が進んでいると聞くが、どう変遷していくのか。

A：21年度には三俣地区消防団の1部を減らし、22年度に土樽地区の第3分団を9部から5部に編成するが、分団員数の変動はない。

Q：がけ地近接地の移転補償費は、このエリアにかかっていることすら知らない人もいます。今後PRする必要があるのではないか。

A：実際に484万円の補助金で移ることは難しいが、22年度に全町の状況が判明するのでPRする必要があります。

印刷費が含まれている。外からの意見も重要である。委託業者のノウハウを委員として議論して取りまとめると話となっているのか。

A：委託料は、計画の取りまとめ、印刷は地元業者へ見積りの上委託したい。委託業者は全国のノウハウを持っているので、審議会のオブザーバーとして入っていただき、計画を取りまとめたい。

Q：路線バス8路線は、採算が取れず当初の取決め通り進むか不安である。委託バス業者とはどんな話が出ているのか。

A：町内の路線バス乗車率には特に変わらないが、湯沢から六日町、湯沢から森宮野原行きの乗車率が低く、国庫補助基準から協議会で時刻や本数を検討している。

Q：財調基金の繰入れ1,810万円三俣の振興対策費1億2,100万円は道の駅用地と合併浄化槽の設置が含まれているのか、2億6,000万円との関連は。

A：この事業は下排水路、合併浄化槽、足湯を行っている。道の駅の裏財源として1,810万円を計上、三俣振興

対策費として2億6,600万円が含まれている。合併浄化槽は、社会資本の整備として別途扱いになる。

Q：町有地の貸付補償料と岩原の土地の返還の動きの経緯。

A：岩原関係で480万円の他にJ.R線の線下補償がある。岩原問題はここところ動いていなかった。役員が3月に変わるので、4月に顔合わせを行いたい。

Q：自主防災組織の補助金が、昨年80万円から35万円に下がったが、今は組織率を上げるより、組織をどう活用するかが重要だ。

A：50%の組織率となっているが、活動実態のない組織が多い。今後はDVDの映像を用いた研修を検討したい。

Q：魚沼消防本部建設に関連して、六日町バイパスの用地買収予算の削減の話が出ているが、概要は。

A：消防本部の用地買収はバイパス関連で予算がつき、用地は南魚沼市が付足して買収して建物を移転新築するが、バイパス用地の一部と建物補償費に湯沢町所有分が含まれている。

■町民課：一般会計

Q：土樽保育園と中央保育園の保育料収入が、大きく変わった理由は家族構成によるのか。

A：11月分の平均保育料は神立、土樽、中央保育園が19,500円、湯沢保育園が20,500円、湯沢町は7階層3歳以上児が5,000円から39,000円、未満児が6,000円から48,000円の平均保育料で予算化している。

Q：住民基本台帳カードで住民票と印鑑証明が5月からセブンイレブンの13,000店舗で実施する計画があるが、町はこれに取り組むのか。

A：住基カードの発行が伸び悩んでいる。使用頻度から費用対効果で導入は考えていない。

Q：新規の家庭系廃油回収事業はきちんとした仕組みができていないと思われる。どんな形で回収を取組むのか。

A：21年5月にはじめた南魚沼市を参考に、安全の確保や職員がいる役場と公民館でとりあえずスタートしたい。バイオエネルギーとして、バイオマスタウン構想